第２回　都市型水害を踏まえた雨水対策のあり方検討部会　議事要旨

１　日　　時　　令和８年１１月２日（月）　１０時００分～１２時００分

２　場　　所　　千葉市役所１階　正庁

３　出 席 者　≪委員≫６名
森田部会長、丸山副部会長（オンライン参加)、佐藤委員、
吉田委員、西委員、山縣委員

≪事務局≫１９名
山田建設局長、中臺下水道企画部長、吉井下水道施設部長、
松田下水道経営課長、笠井下水道経理課長補佐、菅原下水道営業課長補佐、
鈴木下水道整備課長、森山下水道整備課担当課長、根木雨水対策課長、
林下水道維持課長、久野下水道施設建設課長、森田中央浄化センター所長、
本間南部浄化センター所長、
坂村総合治水課長、竹部総合治水課長補佐、雨水企画班（４名）

４　議　　題
（１）第１回検討部会での意見等について
①第１回検討部会の振り返り
②千葉市の浸透事業の取り組み
（２）近年の降雨検証、重点地区の考え方などについて
①近年の降雨検証と現在の整備水準
②重点地区の選定方法、評価項目
③ハザードマップの見直し
④行動変容を促すソフト対策の強化
（３）今後のスケジュール

５　議事概要
（１）第１回検討部会での意見等について
第１回検討部会での意見等について、事務局から説明を行った。
①第１回検討部会の振り返り
②千葉市の浸透事業の取り組み
第１回検討部会にて委員から「流域全体で雨水の流出抑制をすべき」という意見があったことから、本市の雨水貯留浸透事業の取り組みについて事務局から説明を行った。
委員からの主な意見は以下のとおり
・ハード整備だけでは対応しきれないため、雨水貯留浸透事業は非常に重要な施策である。浸透施設が機能するようメンテナンスを継続してほしい。
・雨水浸透ますの設置助成制度は、活用してもらえるよう別の助成制度を組み合わせるなどの工夫が必要である。
（２）近年の降雨検証、重点地区の考え方などについて
近年の降雨検証と現在の整備水準などについて、事務局から説明を行った。
委員からの主な意見は以下のとおり
①近年の降雨検証と現在の整備水準
・第３回以降の検討部会で、千葉豪雨を含めた４０年間の降雨データから１０年確率を算出した結果を報告することとなった。
・近年の降雨の特徴として、強い雨が降るだけでなく、強雨が継続する傾向にあること

も考慮する必要がある。
・整備水準に対応した対策を実施した場合に、床上浸水がどの程度減少するかなどの整備効果を示した方が良い。
・整備水準の検討にあたっては、対策に必要な費用についても考慮する必要がある。

②重点地区の選定方法、評価項目
・対策施設の整備には費用と時間がかかるため、仮に整備水準を上げたり、対象地区を増やしたりしたとしても、現実的に実施できるのかということも考える必要がある。
・優先度にメリハリをつけるため、対象の排水区全体の水準を上げるのではなく、もっと限定した特定の箇所をピンポイントで対策するという視点も必要ではないか。
・重点地区を選定する際に用いた評価指標については、千葉豪雨の被害状況を踏まえて、浸水実績戸数を反映すること、浸水実績回数を細分化すること、ターミナル駅を駅の規模別に評価することなどの見直しが必要である。
・病院やマンションの地下施設については、立地状況や浸水原因が様々であるため、地下施設があることをもって、地区全体を一律に評価することは適切ではないのではないか。
・経済的損失など様々な浸水被害を金銭換算して比較できると重点化する地区が分かりやすくなるのではないか。

③ハザードマップの見直し
・国の委員会において、「浸水想定区域図の作成マニュアルを見直す」とされていることから、見直し後のマニュアルや千葉豪雨の実績を踏まえ、浸水想定区域図の見直しを行うべきである。
・内水ハザードマップの見直しにあたっては、河川の洪水ハザードマップ等との連携を図るべきである。

④行動変容を促すソフト対策の強化
・駅で帰宅困難者が多数発生したことから、鉄道管理者との情報共有や連携が重要である。
・管内の水位情報公開は先進的な取り組みであるため、積極的にPRすべきである。
・既存制度の拡充を含め、早期に対応が可能なソフト対策については、次年度予算に反映し取り組むべきである。

（3）今後のスケジュール

今後の開催スケジュール等について事務局から説明を行った。

問い合わせ先　千葉市建設局下水道企画部総合治水課
ＴＥＬ　０４３（２４５）５６１３
ＦＡＸ　０４３（２４５）５５７４